

国士舘大学大学院入学試験問題用紙

修士課程

社会人選考

研究科	専攻	試験科目	参考書等持込
法学研究科	法学専攻	小論文 I (志望専修科目の基礎) 民事手続法研究 A	不可

X は、その所有する土地を抵当にして Y から 1,000 万円の貸付けを受け、抵当権設定登記がなされた。

5 年後、X は、すでに元利合計 1,200 万円を完済したと主張して、Y に対し抵当権設定登記の抹消登記手続をせよとの判決を求めて訴えを提起したが、Y は、X にはまだ 10 万円の残債務があり、その弁済があるまでは登記抹消に応じられないと争っている。裁判所が、審理の結果、X は債務を完済しておらず、まだ 10 万円の残債務があると認定する場合、どのような判決をすればよいかについて論述しなさい。

国士舘大学大学院入学試験問題用紙

修士課程

社会人選考

研究科	専攻	試験科目	参考書等持込
法学研究科	法学専攻	小論文Ⅱ（志望専修科目の基礎）民事手続法研究A	不可

甲は、乙に営業資金として1,000万円を貸し付けたが、返済期限を過ぎた100万円の残債権が残っている。それにもかかわらず、乙は、すでに全債務を完済済みであると言い張って、甲の催促に応じない。そこで、甲は乙を被告として残債権100万円の支払を請求する訴えを提起した。これに対して、乙は、逆に甲を被告として残債務の不存在確認請求の訴えを提起した。この乙の訴えが認められるかについて論述しなさい。